

①課程No.	1
②科目No.	研 1

科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数・単位時間数	⑥実践研修項目	⑦担当教員名	⑧実施形態
日本語教育実習Ⅰ	必修	2	1, 2, 3, 4, 5, 6	中原郷子	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標		<p><テーマ> 養成課程で身につけた、学習項目に合わせた教授法や教材の選択、授業を組み立てるための準備などの知識を活かして授業を行う。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教壇実習を行うクラスについての十分なコース分析、教材分析により着目すべき点を具体的に設定した上で、明確な目的意識をもって授業を見学することができる。 ・コースの目的に合った授業を実施するための教案作成ができる。 ・養成課程で身につけた知識や技能、態度を活かして授業ができる。 ・自分の授業やクラスメートの授業を客観的に評価することができる。 ・一連の作業を報告書にまとめるにあたり、責任をもって各自の仕事を遂行することができる。 			
⑩授業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ・これまで日本語教員養成課程で学んだ知識を活かし、本学で実際に学ぶ短期留学生のクラスの日本語授業で実習を行う。 ・受講生が自ら実習クラスの雰囲気や日本語力を観察し、授業計画を立て、実施する。 ・模擬授業の前後に少なくとも1回ずつ担当教員による個別の教案指導が実施される。 ・学内の多くの授業を観察し、受講生同士の授業の観察も必須となる。 ・実習終了後は報告書を作成しながら自らの授業を振り返る。 <p>※日本語教育実習Ⅰと日本語教育実習Ⅱは連続する2コマで開講され、両方履修することが求められる。</p> <p>※受講生が7名以上の場合、受講生を2つのグループに分けて異なる日本語クラスで教壇実習を行う。2つのグループは2名の担当教員がそれぞれ指導し、7回目から12回目の模擬授業・教壇実習を行う。</p>			

⑪授業計画

授業回等	各回の授業内容	各回に含む実践研修項目番号
1	オリエンテーション（教育実習の目的、位置付け、注意点の説明）、教壇実習担当決め	1
2	過去の実習例分析：過年度の報告書を読んで、教壇実習を行うために必要な教材研究のポイントを理解する。	3
3	教材研究について：授業目標を達成するためにどのような活動を行えばいいか考える。	3
4	教材研究①：前回の授業でまとめた教材研究のポイントに基づいて、教壇実習担当箇所の研究・分析をする。	3
5	授業見学①：自身で作成した授業観察のポイントに基づいて授業見学を行い、観察報告を作成する。	2
6	授業見学③：自身で作成した授業観察のポイントに基づいて授業見学を行い、観察報告を作成する。	2

7	授業見学の報告, 教案検討, 模擬授業①: 見学した授業についてポイントとした内容と合わせて報告する。作成した教案に基づいて模擬授業を行い, 実施後他の受講生及び教員からコメントをもらう。もらったコメントをもとに, 教案の修正点を考える。	2, 4
8	教案検討, 模擬授業③: 作成した教案に基づいて模擬授業を行い, 実施後他の受講生及び教員からコメントをもらう。もらったコメントをもとに, 教案の修正点を考える。	4
9	教案検討, 模擬授業⑤: 作成した教案に基づいて模擬授業を行い, 実施後他の受講生及び教員からコメントをもらう。もらったコメントをもとに, 教案の修正点を考える。	4
10	教壇実習, 実習観察②: 教壇実習担当者は授業を行い, 他の受講生は授業観察を行い, LMS内でピア評価を行う。	5
11	教壇実習, 実習観察④: 教壇実習担当者は授業を行い, 他の受講生は授業観察を行い, LMS内でピア評価を行う。	5
12	教壇実習, 実習観察⑥: 教壇実習担当者は授業を行い, 他の受講生は授業観察を行い, LMS内でピア評価を行う。	5
13	実習振り返り, 報告書作成①: 教壇実習担当者による内省報告をし, 他の受講生・担当教員からのコメントをもらう。	6
14	実習振り返り, 報告書作成③: 教壇実習担当者による内省報告をし, 他の受講生・担当教員からのコメントをもらう。	6
15	報告書作成⑤: 報告書原稿の最終チェックを行う。	6

⑫使用テキスト	特になし
⑬参考書・参考資料等	必要に応じて授業中に指示する。
⑭同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)	—
⑮学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)	—
⑯学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)	教壇実習50% (ピア評価20%, 教員評価30%), 提出物50% (授業観察のポイント5%, 授業観察報告 (4回分) 20%, 教材研究のポイント5%, 教案・教材15%, 教壇実習の振り返り5%)

①課程No.	1
②科目No.	研 2

科目の内容（シラバス）

③授業科目名	④必修／選択の別	⑤単位数・単位時間数	⑥実践研修項目	⑦担当教員名	⑧実施形態
日本語教育実習Ⅱ	必修	2	2, 3, 4, 5, 6	川崎加奈子	対面
⑨授業のテーマ及び到達目標		<p><テーマ> 養成課程で身につけた、学習項目に合わせた教授法や教材の選択、授業を組み立てるための準備などの知識を活かして授業を行う。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教壇実習を行うクラスについての十分なコース分析、教材分析により着目すべき点を具体的に設定した上で、明確な目的意識をもって授業を見学することができる。 ・コースの目的に合った授業を実施するための教案作成ができる。 ・養成課程で身につけた知識や技能、態度を活かして授業ができる。 ・自分の授業やクラスメートの授業を客観的に評価することができる。 ・一連の作業を報告書にまとめるにあたり、責任をもって各自の仕事を遂行することができる。 			
⑩授業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ・これまで日本語教員養成課程で学んだ知識を活かし、本学で実際に学ぶ短期留学生のクラスの日本語授業で実習を行う。 ・受講生が自ら実習クラスの雰囲気や日本語力を観察し、授業計画を立て、実施する。 ・模擬授業の前後に少なくとも1回ずつ担当教員による個別の教案指導が実施される。 ・学内の多くの授業を観察し、受講生同士の授業の観察も必須となる。 ・実習終了後は報告書を作成しながら自らの授業を振り返る。 <p>※日本語教育実習Ⅰと日本語教育実習Ⅱは連続する2コマで開講され、両方履修することが求められる。</p> <p>※受講生が7名以上の場合、受講生を2つのグループに分けて異なる日本語クラスで教壇実習を行う。2つのグループは2名の担当教員がそれぞれ指導し、7回目から12回目の模擬授業・教壇実習を行う。</p>			

⑪授業計画

授業回等	各回の授業内容	各回に含む実践研修項目番号
1	授業観察のポイント作成：教壇実習を行うクラスを中心に、コースの目的、学習者のバックグラウンドなどに基づいて、どのような点に着目して実際の授業を見学するかまとめる。	2
2	授業研究のポイント作成：担当する教壇実習内容がコース全体のどのような位置付けになるか分析し、1回の授業で学習者が「何ができるようになるか」、言語能力記述文の形式で記述された目標を考える。	3
3	教材研究のポイントについて討議：小グループで教材研究のポイントについて討議し、研究・分析を深める。	3
4	教材研究②：教壇実習担当箇所の研究・分析をし、授業プランを立てる。	3
5	授業見学②：自身で作成した授業観察のポイントに基づいて授業見学を行い、観察報告を作成する。	2
6	授業見学④：自身で作成した授業観察のポイントに基づいて授業見学を行い、観察報告を作成する。	2

7	教案検討, 模擬授業②: 作成した教案に基づいて模擬授業を行い, 実施後他の受講生及び教員からコメントをもらう。もらったコメントをもとに, 教案の修正点を考える。	4
8	教案検討, 模擬授業④: 作成した教案に基づいて模擬授業を行い, 実施後他の受講生及び教員からコメントをもらう。もらったコメントをもとに, 教案の修正点を考える。	4
9	教案検討, 模擬授業⑥: 作成した教案に基づいて模擬授業を行い, 実施後他の受講生及び教員からコメントをもらう。もらったコメントをもとに, 教案の修正点を考える。	4
10	教壇実習, 実習観察②: 教壇実習担当者は授業を行い, 他の受講生は授業観察を行い, LMS内でピア評価を行う。	5
11	教壇実習, 実習観察④: 教壇実習担当者は授業を行い, 他の受講生は授業観察を行い, LMS内でピア評価を行う。	5
12	教壇実習, 実習観察⑥: 教壇実習担当者は授業を行い, 他の受講生は授業観察を行い, LMS内でピア評価を行う。	5
13	実習振り返り, 報告書作成②: 教壇実習担当者による内省報告をし, 他の受講生・担当教員からのコメントをもらう。	6
14	実習振り返り, 報告書作成④: 教壇実習担当者による内省報告をし, 他の受講生・担当教員からのコメントをもらう。	6
15	報告書作成⑥: 報告書原稿の最終チェックを行い, 完成原稿とする。	6

⑫使用テキスト	特になし
⑬参考書・参考資料等	必要に応じて授業中に指示する。
⑭同時双方向性の確保 (通信で実施する科目のみ)	—
⑮学修課程の管理方法 (通信で実施する科目のみ)	—
⑯学生等に対する評価 (評価基準・評価方法等)	教壇実習50% (ピア評価20%, 教員評価30%), 提出物50% (授業観察のポイント5%, 授業観察報告 (4回分) 20%, 教材研究のポイント5%, 教案・教材15%, 教壇実習の振り返り5%)